

万博TDMの取組及び検証結果について

1 万博TDM検証結果

2 企業等の取組（アンケート結果）

3 大阪府市の取組

4 博覧会協会の取組

5 会期終盤に向けた進め方

6 （参考）TDM関連施策



大阪・関西万博TDMパートナー

1

万博TDM検証結果

■ 交通量低減量の検証【鉄道（Osaka Metro中央線）】

検証期間

➤ 下記①②を比較し、交通量変動を検証

<①万博TDM取組期間>

- 6月 2日 (月) ~ 6月30日 (月)
● 8月18日 (月) ~ 8月29日 (金)

＜②比較週（万博TDM取組前の直近週）＞

- 5月26日(月)～5月30日(金)]

検証時間

➤ 混雑対策が必要となる
平日朝ピーク時（8時台）

検証データ

➤ **混雑率** ※Osaka Metro提供データに基づく

検証内容

➤ Osaka Metro中央線（弁天町→朝潮橋）の混雑率※の変化

➡ Osaka Metro中央線において最も混雑が予測される当該区間における
TDMパートナー企業や大阪府市（ATC、咲洲部局）等の取組による効果の把握

※来場者輸送具体方針における達成目標120%との比較

検証区間

Osaka Metro中央線（弁天町→朝潮橋）



■ 交通量の検証 【鉄道（Osaka Metro中央線）】

『弁天町→朝潮橋駅_区間混雑率（8時台）』の推移

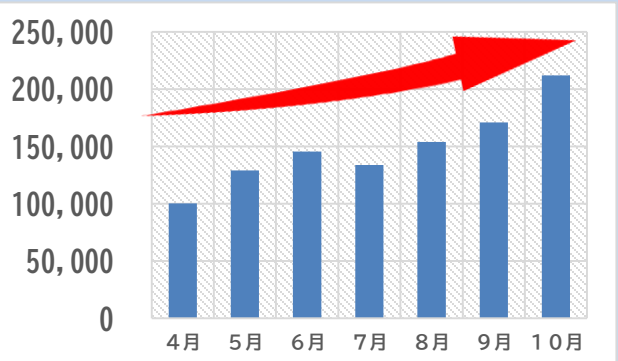
✓ TDM取組週の全日において、取組前よりも混雑率が低いことを確認

●TDM取組前：	〔5/26～5/30〕	平均	<u>120%</u>
●TDM取組週：	〔6/ 2～6/30の平日〕	平均	<u>106%</u>
	〔8/18～8/29の平日〕	平均	<u>101%</u>

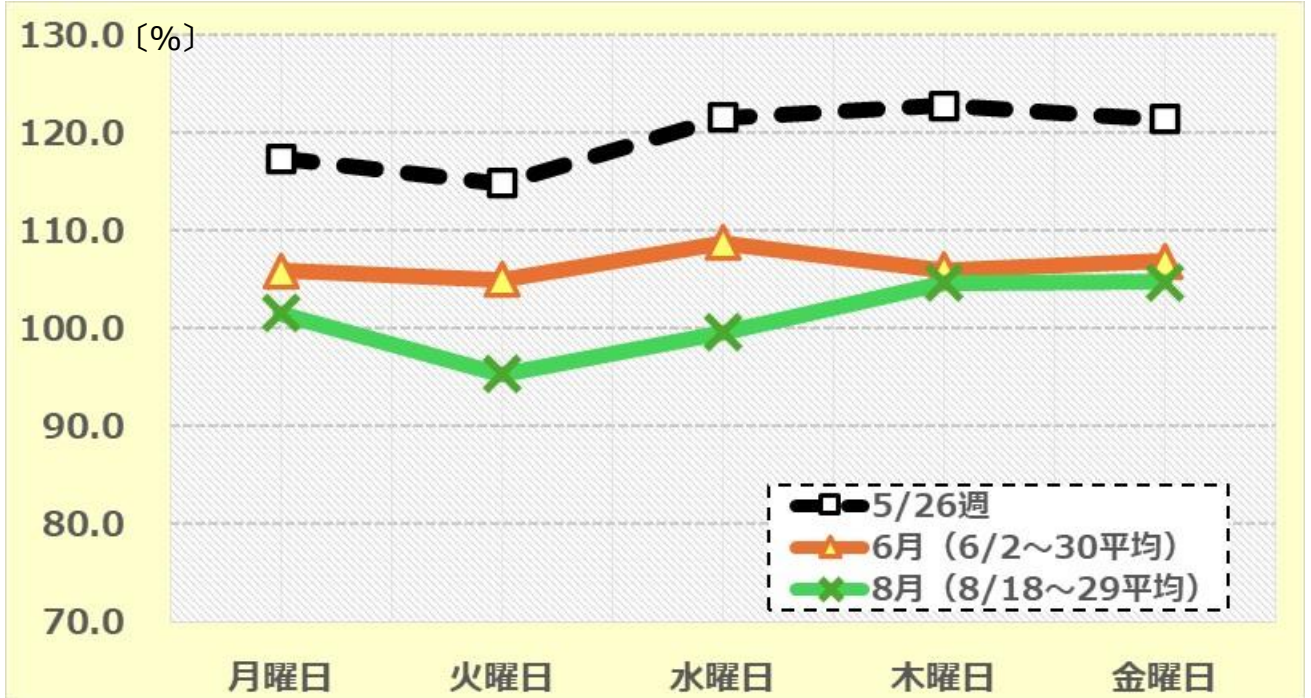
✓ TDM取組週の混雑率は、6月期で平均106%、8月期で平均101%であり、万博来場者が増加見込みにある中、目標値の120%を下回る
（TDMの取組がなければ、混雑率が120%を超過する可能性あり）

➡TDMパートナー企業や府市等の取組みによるものと推測

会期終盤にかけて来場者が多くなる見込み



※4～8月は実績，
9～10月は来場者輸送具体方針に基づく予測値



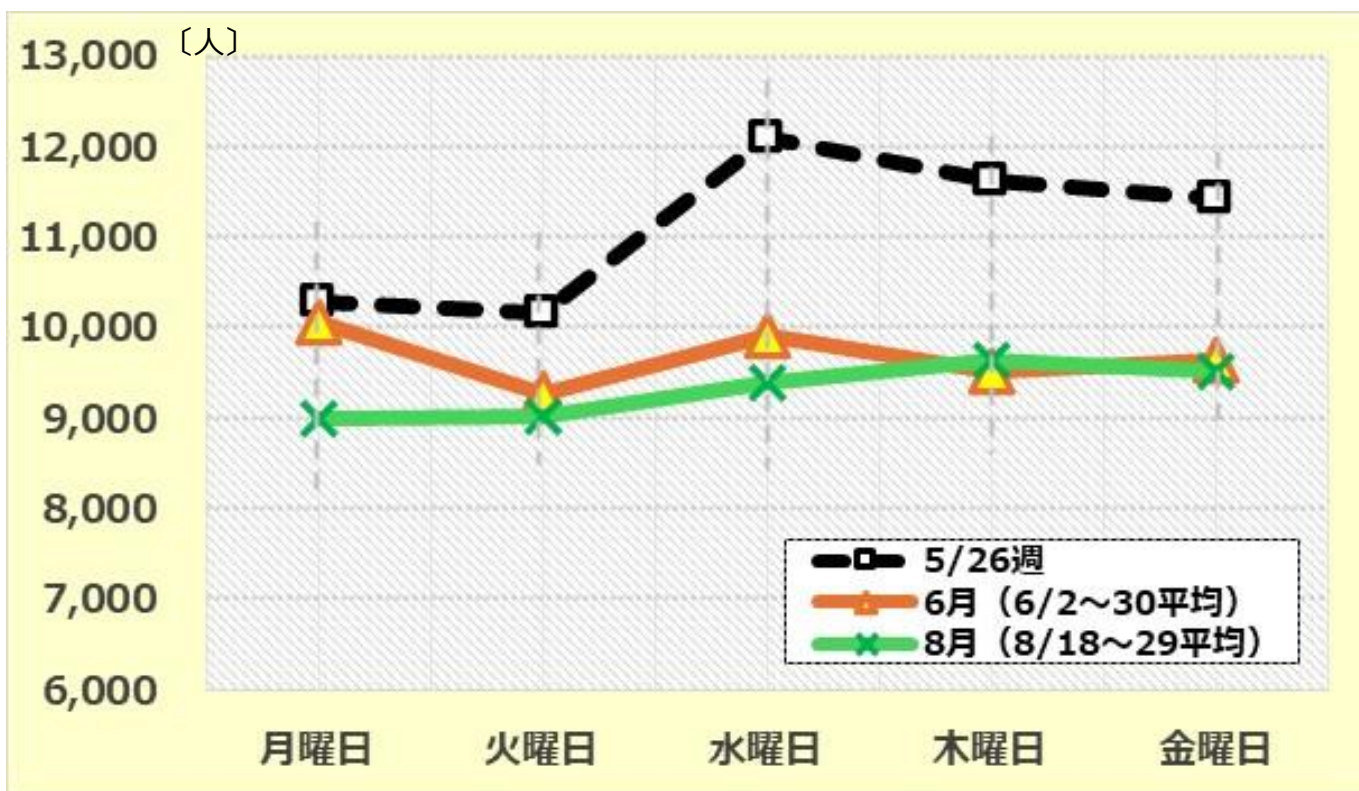
■ 交通量の検証【鉄道（Osaka Metro中央線）】

『コスモスクエア・トレードセンター前駅_降車人数（8時台～10時台）』の変化

- TDM取組前の直近週（5/26週）よりも、全体としてTDM取組期間である6月及び8月の降車人数が少ない結果を確認

※6/16（月）は沿線主要集客施設において、大規模なイベントがあったため、イベント来訪者による降車人数増が、比較対象週の5/26（月）との差分が小さい主たる要因と推測

- また、中央線沿線主要集客施設においては、催事時におけるニュートラム迂回の推奨や、混雑時間帯におけるオンライン授業を実施している施設もあり、引き続き、ニュートラム迂回等と呼びかけていく



■ 交通量の検証 【万博会場周辺道路】

検証期間

➢ 下記①②を比較し、交通量変動を検証

＜①万博TDM取組期間＞

- 6月 2日 (月) ～ 6月30日 (月)
- 8月18日 (月) ～ 8月29日 (金)

＜②比較週（万博TDM取組前の直近週）＞

- 5月26日 (月) ～ 5月30日 (金)

検証時間

➢ 混雑が想定される平日朝ピーク時（9時台）

検証データ

➢ 通過する車両台数（pcu/h）

※AIカメラ等による
モニタリング結果に基づく

※pcu（passenger car unit）：

通行する交通がトラック等の大型車、二輪車などを含まず乗用車だけから構成されている場合における（乗用車のみの）通行台数を示すもの。大型車は小型車の2倍。

検証内容

➢ 会期前の道路交通量予測において、交通容量に対し最もひっ迫が予測されていた
阪神高速湾岸舞洲出口（高速ルート）の交通量の変化及び交通容量に対する評価
➡ TDMパートナー企業等の取組による効果の把握

検証箇所



■交通量の検証【万博会場周辺】

＜阪神高速湾岸舞洲出口（高速ルート）の交通量（9時台）の推移＞

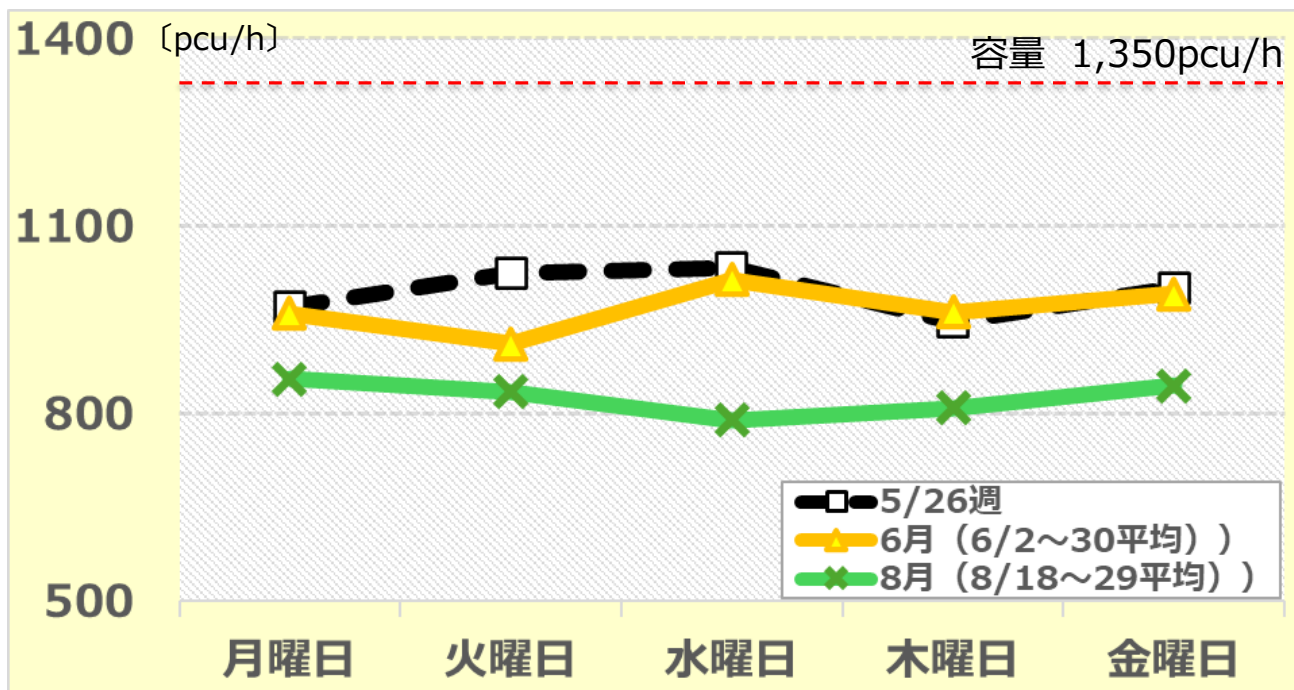
- ▶TDM取組期間中の6月においては、道路交通量の減少傾向を確認するには至らなかったが、8月においては、減少傾向であった。

（一般交通（小型・大型）と万博交通（大型）の減少に伴うもの）

- ▶また、道路交通量が多い場合でも交通容量に対して30%弱下回っており、混雑は発生していない。

	5/26週の平均		6月（6/2～30平均）		8月（8/18-8/29平均）	
9時台	995pcu/h	容量比74%	968pcu/h	容量比72%	827pcu/h	容量比61%

- ▶今後、会期終盤の需要増に加え、西ゲート利用促進策（P&R駐車場の利便性向上等）に伴い道路交通量が増加する可能性があるため、引き続きTDMの取組への協力を呼びかけ





大阪・関西万博TDMパートナー

2

企業等の取組（アンケート結果）

■ アンケートの実施対象及び分析手法

実施対象

NO	対象分類	対象	方法	目的	回収数
1	企業	TDMパートナー企業	TDMパートナー企業へのメールマガジンでアンケートを配信	TDMパートナー企業の取組状況や課題を把握	322件
2	駅利用者 (WEB)	大阪府＋近隣市に居住し、通勤で8, 9, 10時台に鉄道を利用されている方	・楽天インサイトのwebモニターを対象に条件に該当する方を抽出し回答を回収 ・TDMパートナー専用HPにて回答を回収	認知度や駅利用者の取り組み状況を把握	12,172人



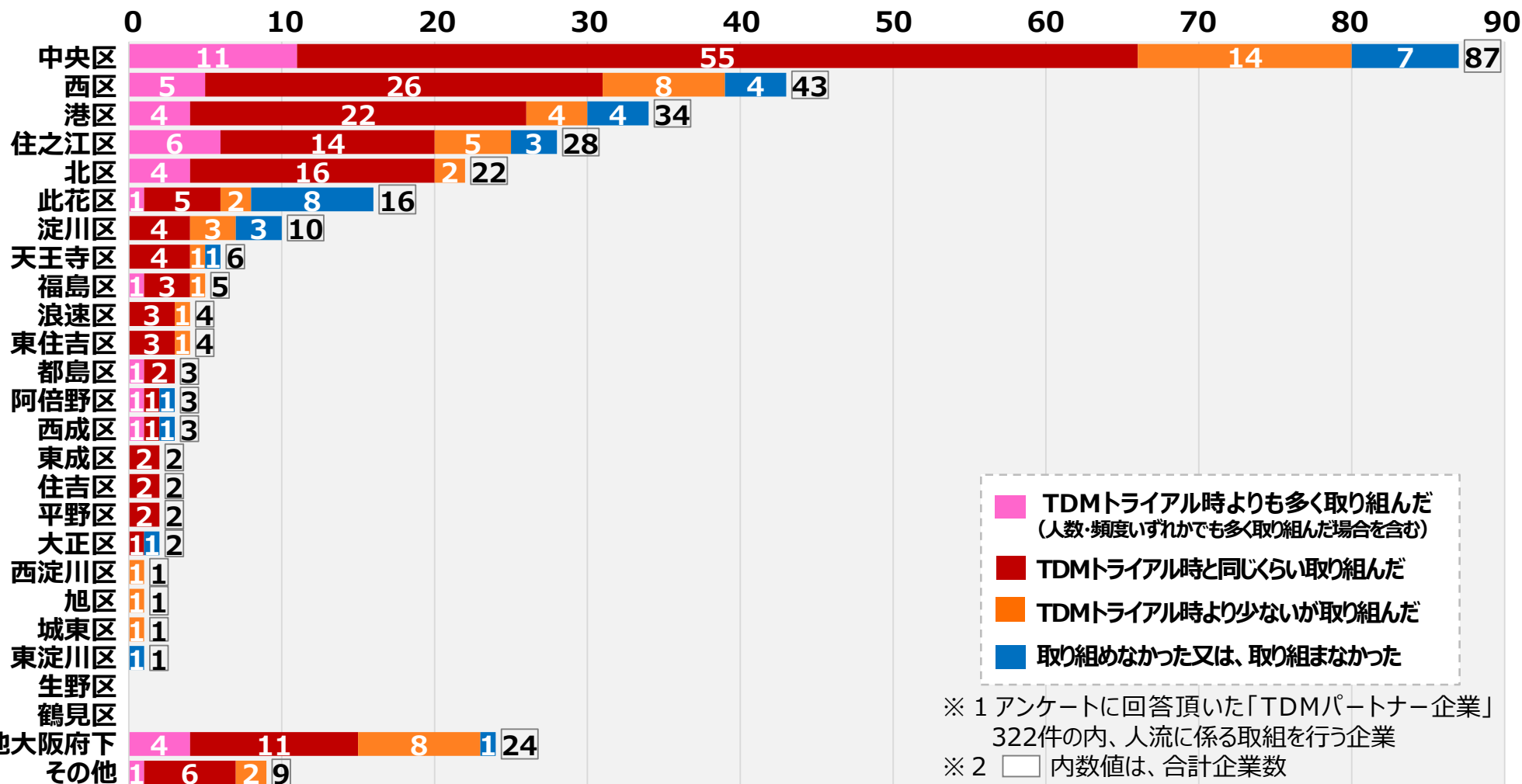
分析手法

「TDMパートナー企業」と「個人（駅利用者）」別に、6月のTDMの取組に関する結果を整理し、今後の取組に活かす

■TDMパートナーの取組分布【人流】

- アンケートに回答頂いた「TDMパートナー企業」のうち、取り組んだ企業は中央線沿線区（本町以西）
である中央区・西区・港区や、会場周辺区である住之江区・此花区が上位となっている

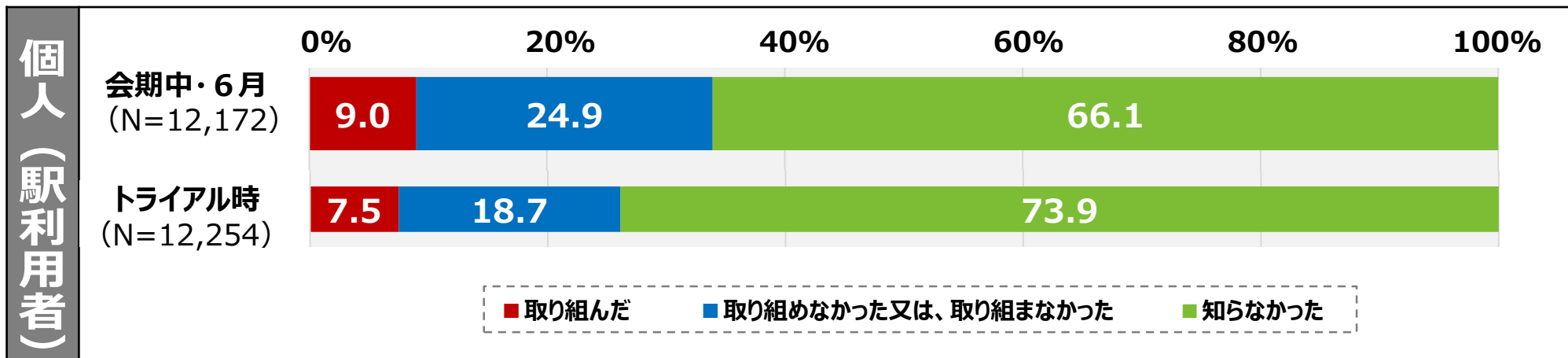
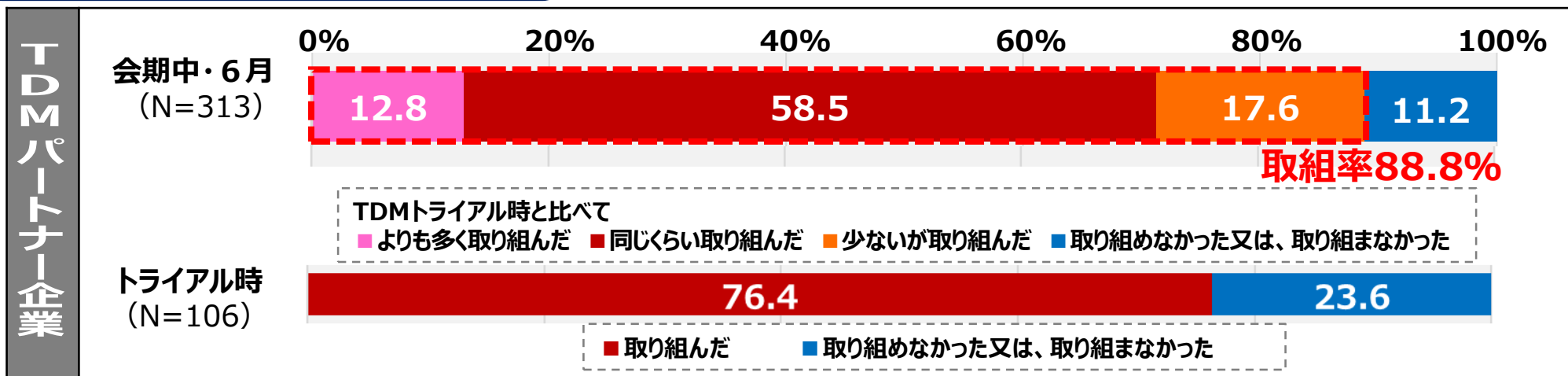
取組を行う企業の分布（N=313 ※1）



■ 6月のTDM取組状況【人流】

- 「人流」に係る取組みを実際に行った「TDMパートナー企業」の割合は、トライアル時と比べて約89%と高い
(278件※¹ / 313件)
- 「個人（駅利用者）」の取組割合及び認知度は、トライアル時と比べて改善されているものの、依然低い

「人流」に係る取組の有無

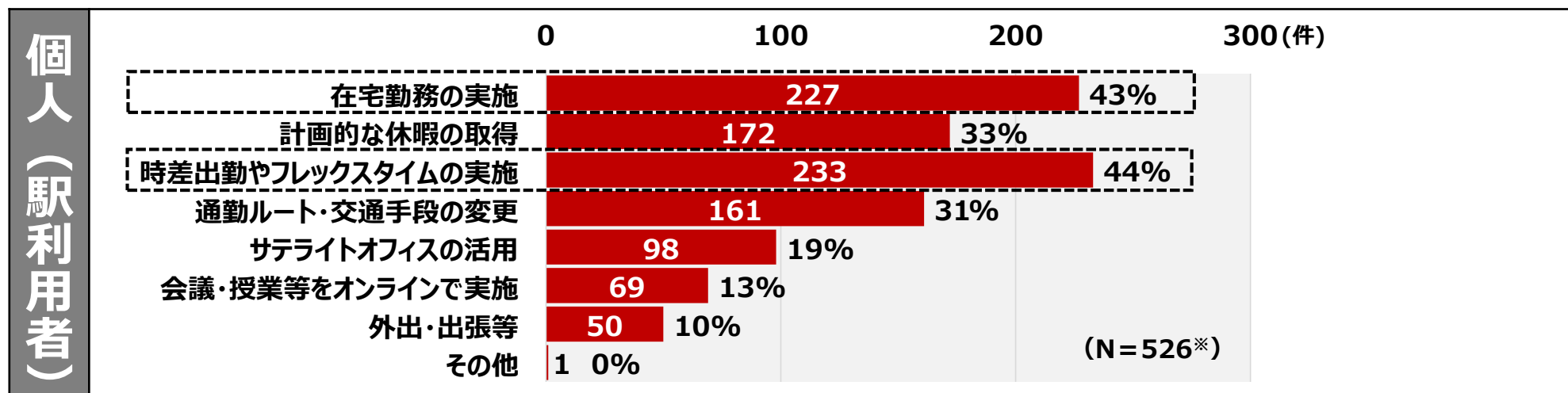
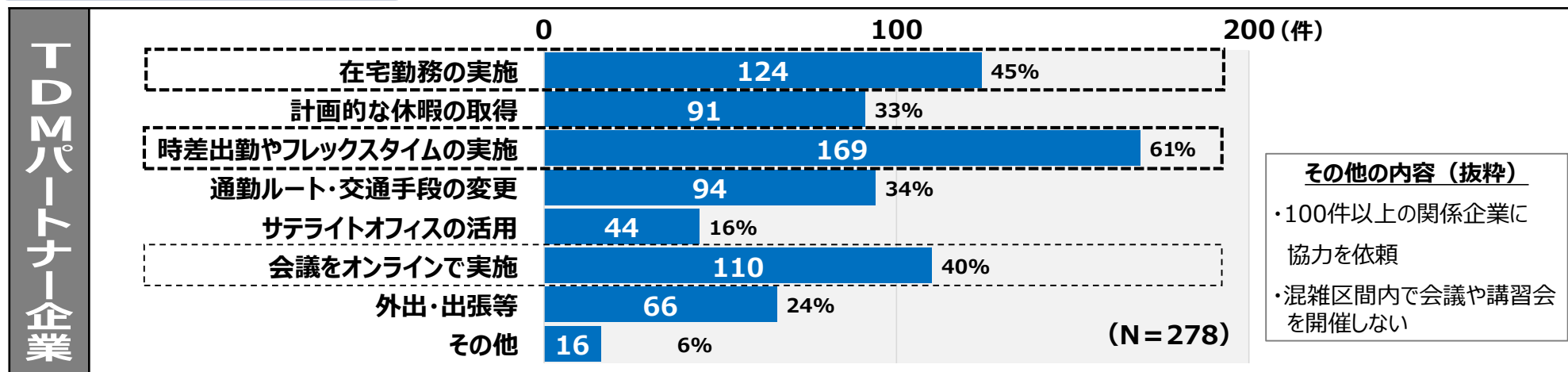


※1.「人流に係る取組みを行う企業」313件の内、6月のTDMに取組んだ企業

■ 6月のTDM取組内容【人流】

- 「TDMパートナー企業」、「個人（主に駅利用者）」ともに、「在宅勤務の実施」「時差出勤やフレックスの実施」が上位
- また、「TDMパートナー企業」では、「100件以上の関係企業に協力を依頼」、「混雑区間内で会議や講習会を開催しない」といった取組もみられた

取組内容（人流）

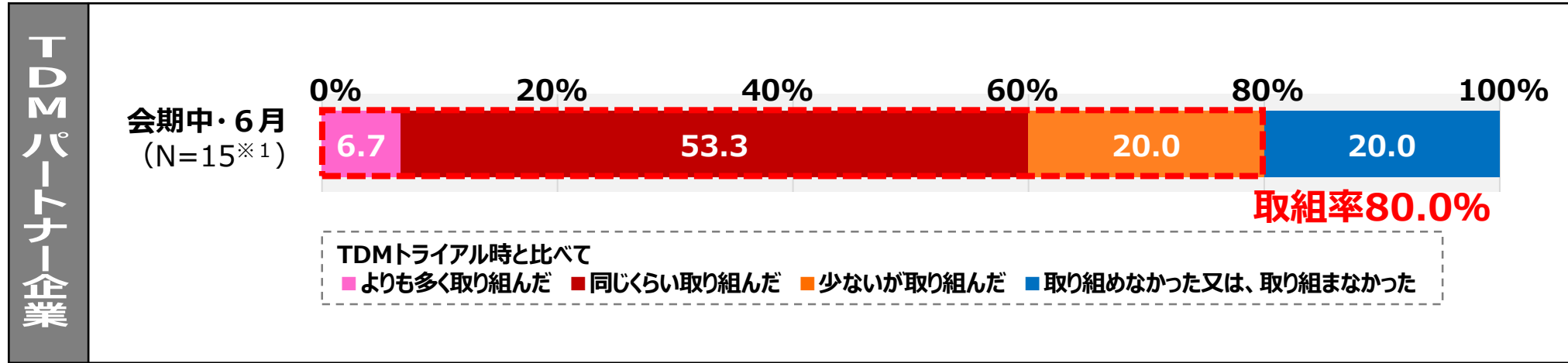


※「個人（駅利用者）」12,172人のうち、中央線及び御堂筋線利用者の中で、6月TDMに取り組んだ方

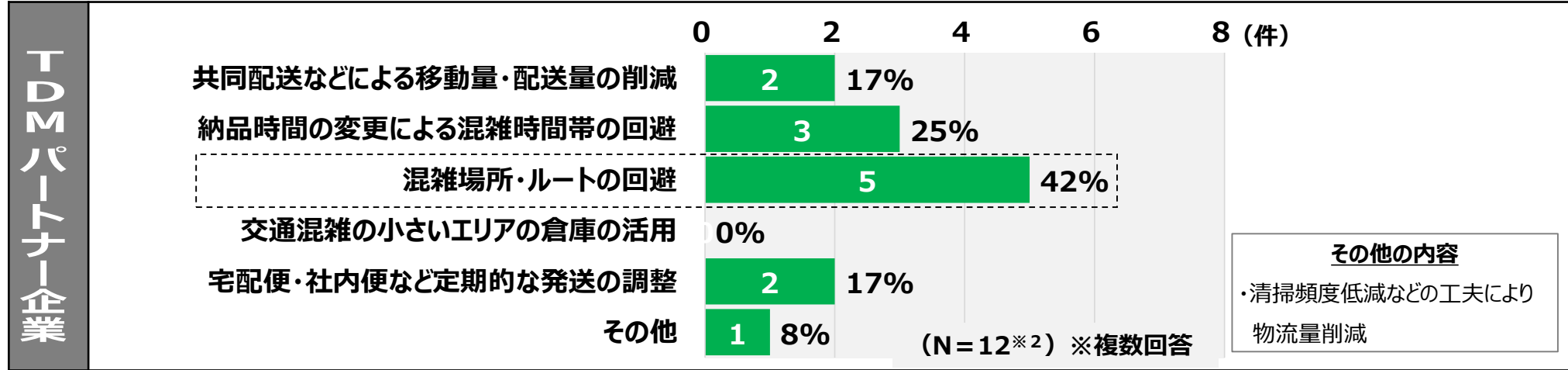
■ 6月のTDM取組状況【物流】

- 「物流」に係る取組を実際に行った「TDMパートナー企業」の割合が80.0%
- 「TDMパートナー企業」による物流の取組は、「混雑場所・ルート回避」が多い

「物流」に係る取組の有無



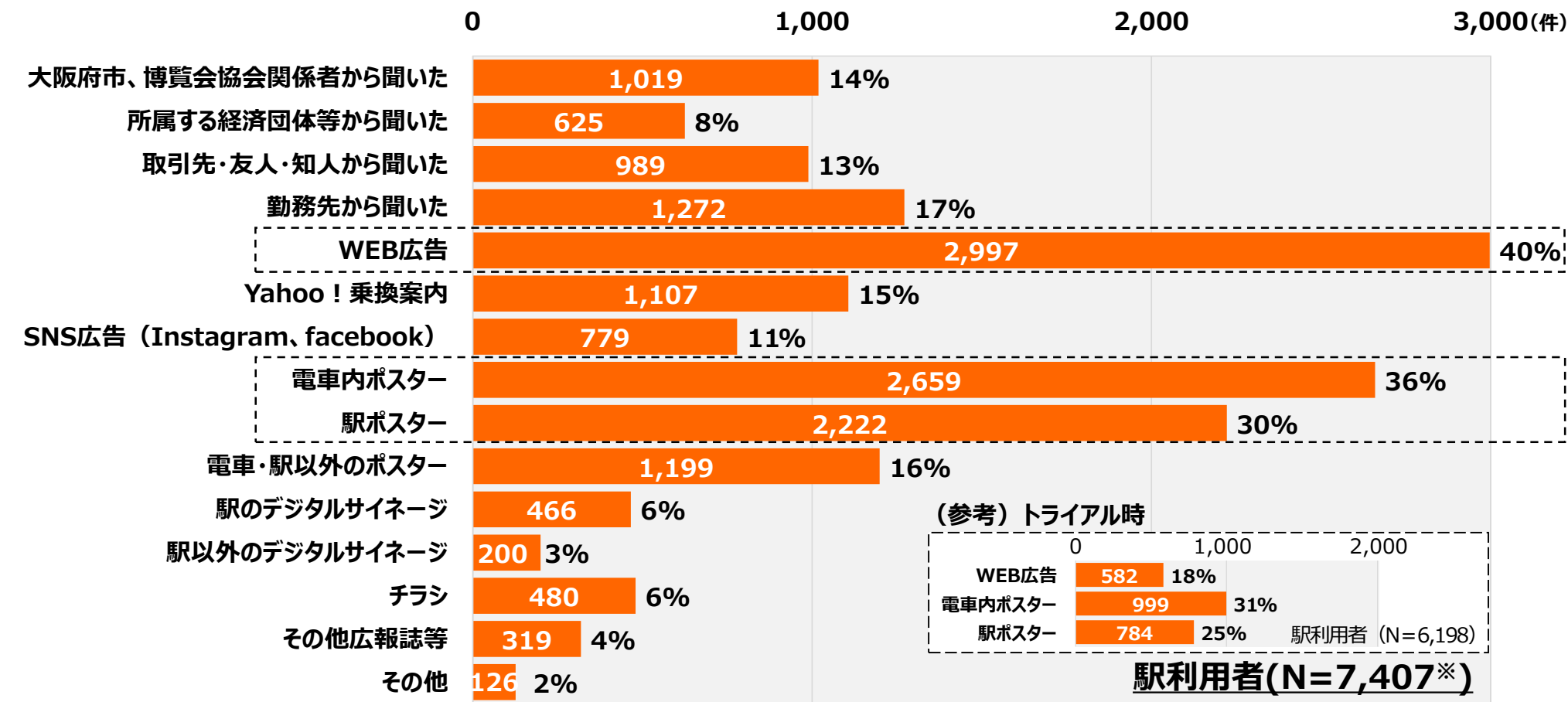
取組内容（物流）



※1. アンケートに回答頂いた「TDMパートナー企業」322件の内、物流に係る取組を行う企業
※2. 「物流に係る取組みを行う企業」15件の内、6月TDMに取組んだ企業

■TDMの周知方法

- 「WEB広告」が約40%、「鉄道車両広告(電車内・駅ポスター)」が約66%と認知度が高い
 - ➡ WEB広告、電車内・駅ポスターが認知度向上に寄与しており、会期終盤に向けたTDMの有効な情報発信方法であることを確認
 - また、万博TDMを知らない方への周知を実施するため、情報発信の強化が必要

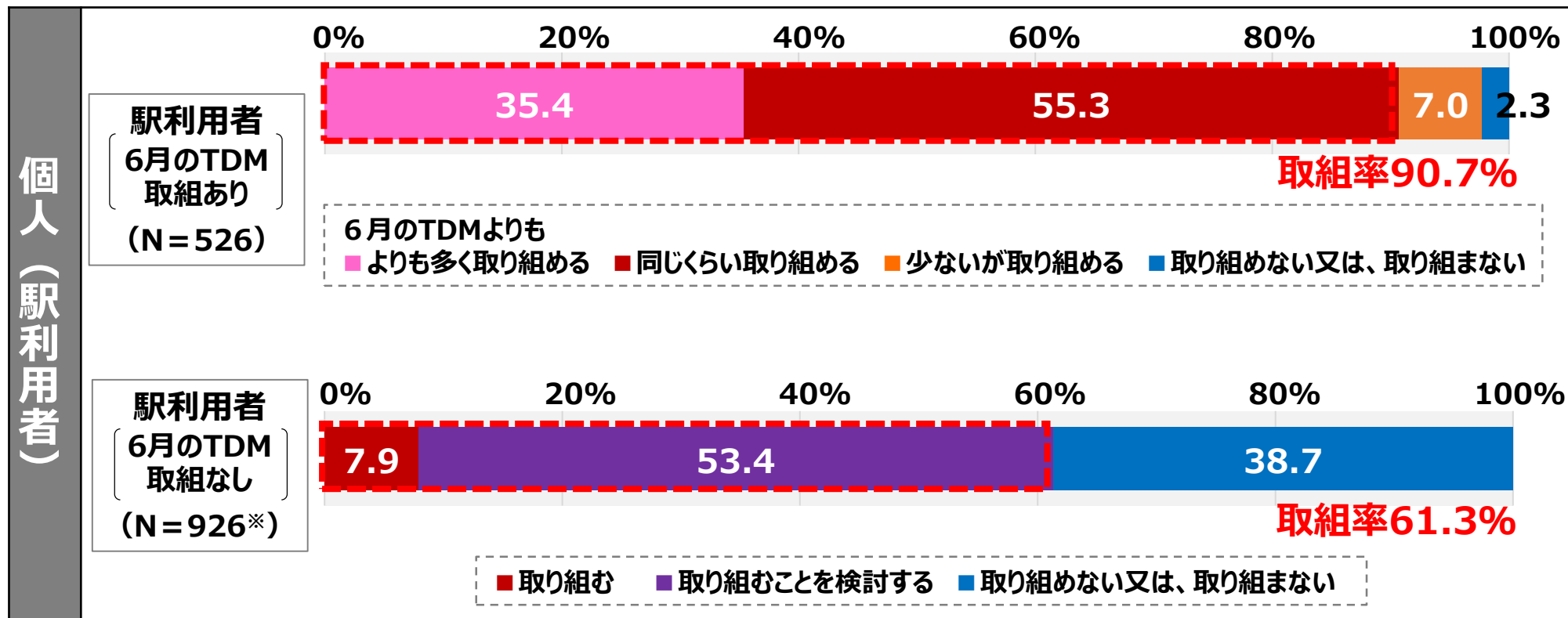


※個人 (駅利用者) 12,172人の内、万博TDMを知っている方

■ 10月のTDM取組見込み

- 「駅利用者で6月のTDMに取り組んだ方」は、「6月以上に取り組める」が約91%と高い
 - 「駅利用者で6月のTDMに取り組んでいない方」で、「取り組む」または「取り組むことを検討する」が約61%、「取り組めない又は、取り組まない」が約39%存在
- ⇒ 「取り組む」方、または「検討する」方が着実に取り組んでいただけるよう、また、「取り組んでいない」方への理解促進に向けた働きかけが必要

10月の取組見込み

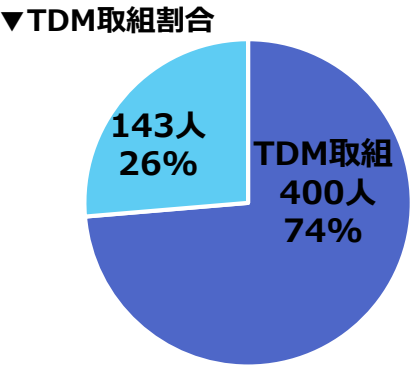


※「個人（駅利用者）」12,172人のうち、中央線及び御堂線利用者の中で、6月TDMに取り組めなかった又は、取り組まなかった方

■ 取組事例：株式会社LIXIL

- 在宅勤務、計画的な休暇の取得、時差出勤、サテライトオフィスの活用、オンライン会議など、人流の各種取組を実施。
- 10月は管理部門・その他の部門において、6月より多く取り組める見込み。

所在地	大阪府大阪市住之江区南港北1-7-62
業種	建具製造業
従業員数	543人（大阪市住之江区）
平均取組人数	400人/日
取組割合	74%



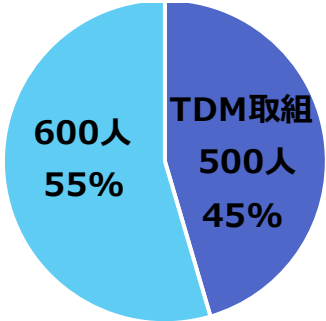
<アンケートでの具体的な取組状況>

■ 取組状況	➢ TDMトライアル時と同じくらい取り組んだ
■ 取組内容(人流)	➢ 在宅勤務の実施 ➢ 計画的な休暇の取得 ➢ 時差出勤やフレックスタイムの実施 ➢ 混雑しない交通ルート・手段で行けるサテライトオフィスの活用 ➢ 会議をオンラインで実施 ➢ 外出・出張等
■ 取組による課題(人流)	➢ 繁忙期等により、従業員の全体的な休暇取得促進が難しい ➢ 関係者・取引先等との調整が必要
■ 10月の取組予定	➢ 6月より多く取り組める

■取組事例：ミズノ株式会社

- コロナ禍に試行していたテレワークを制度化し継続し、出勤率50～60%を継続キープ。
- コアタイムを設定しないフレックス制度や、1時間のみの勤務も可能なスーパフレックスを実施し、さらに時差出勤の勤務開始可能時間を7:30だったものを7:00から開始可能に変更。
- インテックス大阪での大規模展示受注会を自社でのコンパクトな展示受注会とし、事前予約により来社人数を制限するとともに、来社時間管理により混雑を回避。

▼TDM取組割合



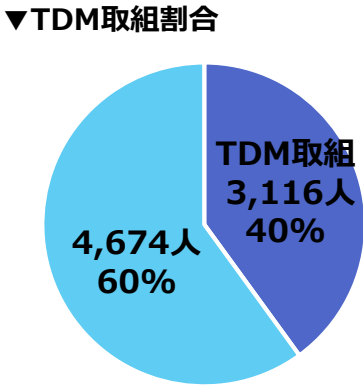
所在地	大阪市住之江区南港北1-12-35
業種	製造・販売・スポーツ施設の運営、各種スクール事業
従業員数	1100人（大阪市住之江区）
平均取組人数	500人/日
取組割合	45%

＜アンケートでの具体的な取組状況＞

■ 取組状況	➢ TDMトライアル時と同じくらい取り組んだ
■ 取組内容(人流)	➢ 在宅勤務の実施 ➢ 時差出勤やフレックスタイムの実施 ➢ 迂回通勤経路のアナウンス ➢ 大型イベントを自社でのコンパクトな展示会とし、事前予約により来社人数抑制・来社時間管理による混雑回避
■ 取組による課題(人流)	➢ 特に課題に感じていることはない
■ 会期終盤の取組予定	➢ 6月と同程度取り組める

- TDMトライアル時よりも多く取り組んでおり、会期終盤も6月と同程度取り組める見込み。
- 在宅勤務、計画的な休暇の取得、時差出勤、オンライン会議など、人流の各種取組を実施。

所在地	大阪府大阪市北区中之島3-6-16
業種	電力事業等
従業員数	7,790人（大阪市）
平均取組人数	3,116人/日
取組割合	40%



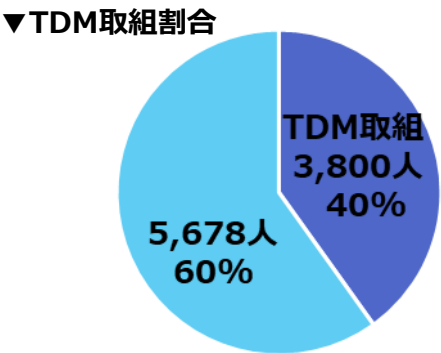
<アンケートでの具体的な取組状況>

■ 取組状況	➢ TDMトライアル時よりも多く取り組んだ
■ 取組内容(人流)	➢ 在宅勤務の実施 ➢ 計画的な休暇の取得 ➢ 時差出勤やフレックスタイムの実施 ➢ 会議をオンラインで実施 ➢ 外出・出張等
■ 取組による課題(人流)	➢ 業務ピークが各部門により異なるため一律的な抑制、コントロールが困難
■ 会期終盤の取組予定	➢ 6月と同程度取り組める

■取組事例：NTT西日本株式会社

- 6月期はパートナー会社も含めたより広い範囲へ混雑回避の呼びかけを実施し、会期終盤へ向けては社員への情報提供を強化している。
- 在宅勤務、時差出勤、外出時間の調整など、人流の各種取組を実施。

所在地	大阪府大阪市都島区東野田町4-15-82
業種	情報・通信業
従業員数	9,478人（大阪市）
平均取組人数	3,800人/日
取組割合	40%



<アンケートでの具体的な取組状況>

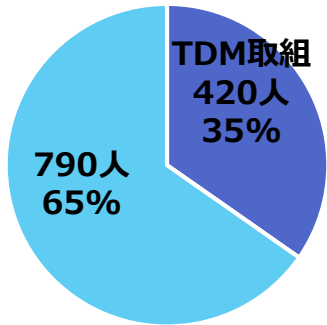
■ 取組状況	➢ TDMトライアル時よりも多く取り組んだ
■ 取組内容(人流)	➢ 在宅勤務の実施 ➢ 時差出勤やフレックスタイムの実施 ➢ 混雑しない交通ルート・手段で行けるサテライトオフィスの活用 ➢ 外出・出張の時間調整等 ➢ パートナー会社も含めたより広い範囲へ混雑回避の呼びかけを実施
■ 取組による課題(人流)	➢ 通勤ルート変更に伴う就業規則の見直しが必要 ➢ 計画的に時差出勤・休暇取得を実施するための勤務体制の調整が必要 ➢ 関係者・取引先等との調整が必要 ➢ 通勤に支障が出るほどの混雑では無かったため、TDM協力への意識醸成が困難であった
■ 会期終盤の取組予定	➢ 6月期の取組みを継続する他、社員自らが混雑回避の必要性を判断できるよう、OsakaMetroの混雑予測や万博TDMサイトへのリンクを社内ポータルサイトへ掲載し、情報提供および機運醸成の強化を図っている

■取組事例：株式会社ロイヤルホテル

- 人流面では、サービス部門はシフト制で動いており元々時差出勤が大半を占めているが、管理・企画部門はリモートワークやリモート会議にも取り組んだ。
- 物流面では宅配便・社内便など定期的な発送の頻度・時間帯等の調整や、連泊者に清掃パターンを選択頂くことで、リネン類の交換頻度が低下する等、物流削減に一定の効果が見られた。
- ゲストへ公共交通の利用推奨を案内するとともに、取引先や業界に対しTDMへの協力を呼びかけた。

所在地	大阪市北区中之島5-3-68
業種	宿泊業
従業員数	1,210人（大阪市）
平均取組人数	420人/日
取組割合	35%

▼TDM取組割合



<アンケートでの具体的な取組状況>

■取組状況	➢TDMトライアル時と同じくらい取り組んだ
■取組内容(人流)	➢在宅勤務の実施 ➢時差出勤やフレックスタイムの実施 ➢会議をオンラインで実施
■取組内容(物流)	➢宅配便・社内便など定期的な発送の頻度・時間帯等の調整 ➢客室清掃頻度低減の工夫により、物流量削減
■取組による課題(人流)	➢繁忙期等により、従業員の全体的な休暇取得促進が難しい
■取組による課題(物流)	➢従業員へのTDMの取り組みに関する周知・意識醸成 ➢関係者・取引先等との調整
■会期終盤の取組予定	➢6月と同程度取り組める



大阪・関西万博TDMパートナー

3

大阪府市の取組

■府市職員のTDM取組結果（6～8月）について

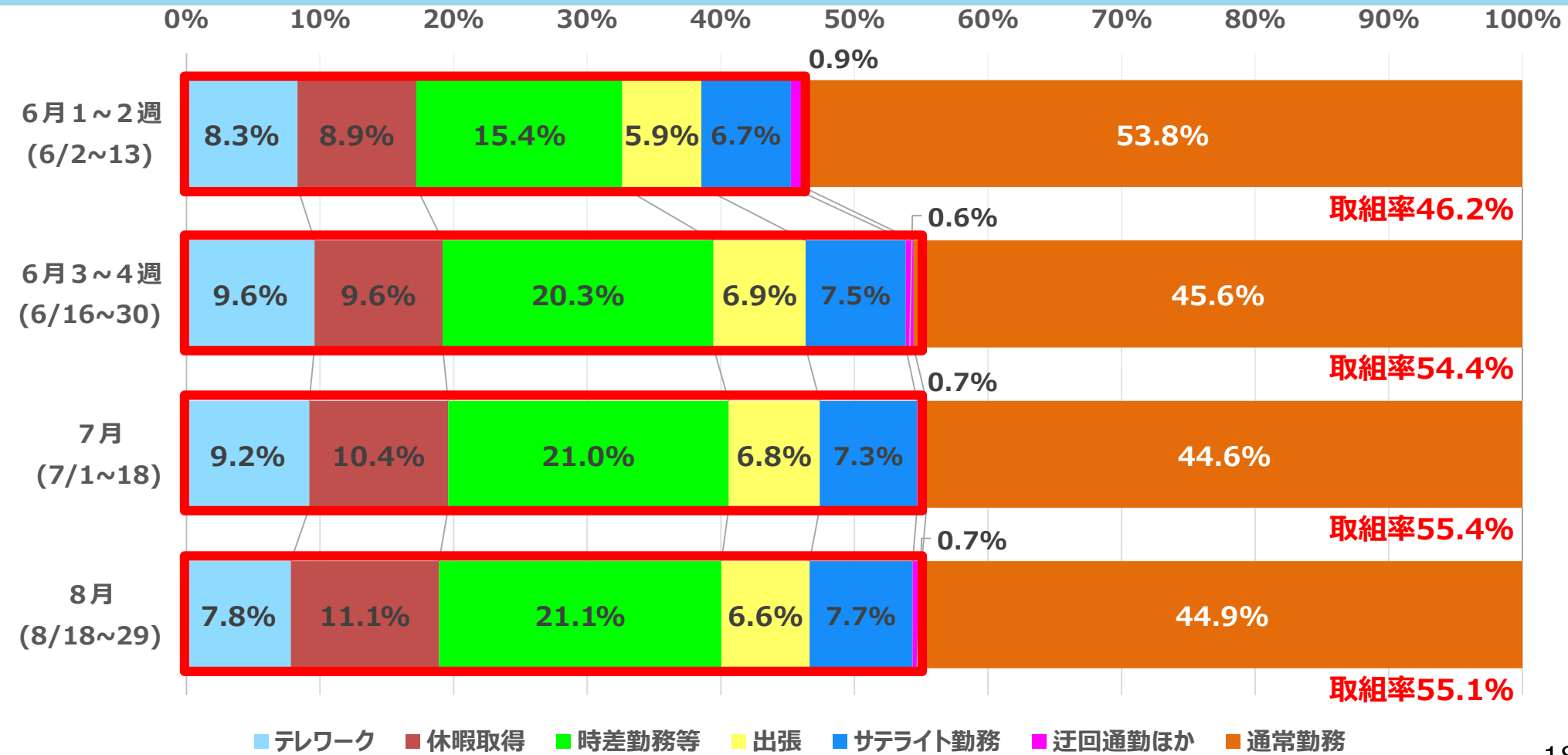
➤ 咲洲・ATC庁舎部局（約3,650人）において、万博TDM*を実施 * 8～10時台に中央線の乗車を回避を実施

＜取組実績＞

【6月1～2週目】 取組目標3割に対して約46%

【6月3～4週目、7月・8月】 取組目標5割に対して約55%

➤ 取組内容は、「時差勤務等」が最も多く、次いで「休暇取得」、「テレワーク」が多い傾向であった





大阪・関西万博TDMパートナー

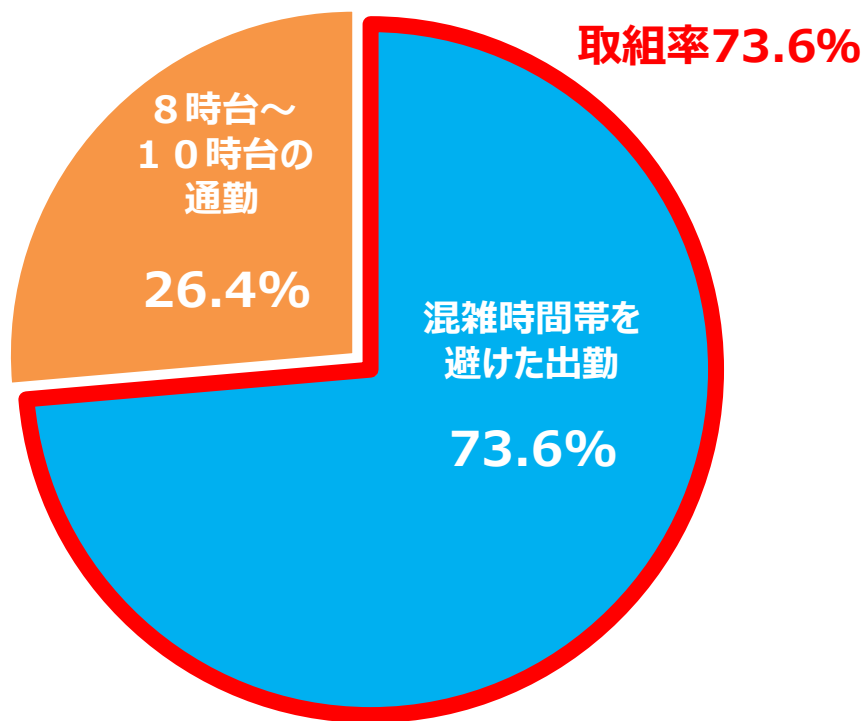
4

博覧会協会の取組

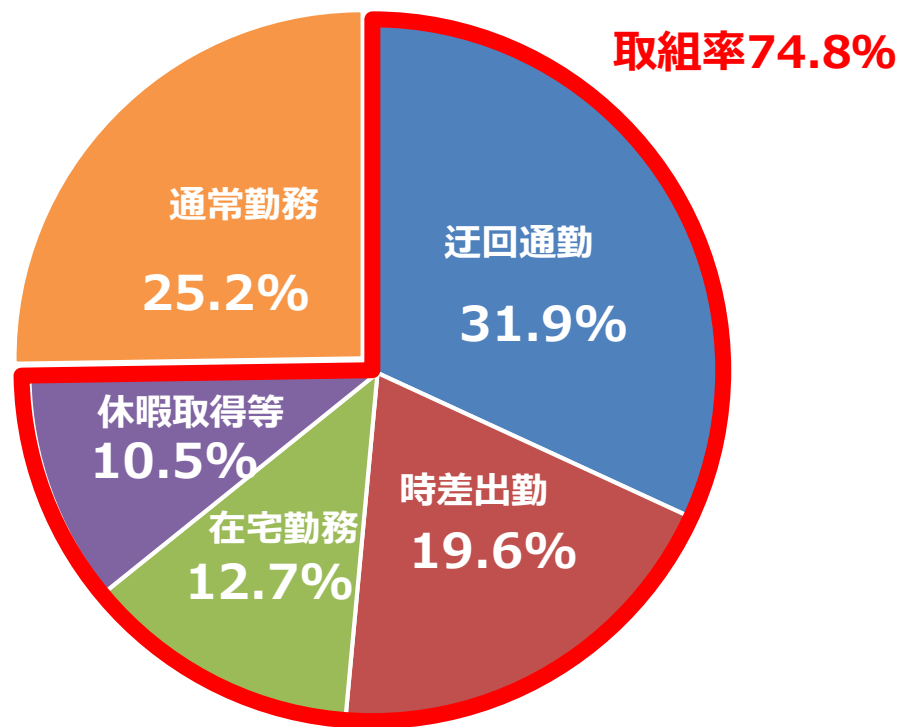
■ 6～8月のTDM取組結果（博覧会協会職員）

- ▶ 協会職員約 800 人のうち、夢洲勤務が約 8 割、ATC・咲洲勤務が約 2 割
- ▶ 夢洲勤務の職員においては、約 74 %が混雑時間帯（8 時台～10 時台）を避けて出勤
- ▶ ATC・咲洲勤務の職員においては、約 75 %がTDMに取組んだ

夢洲勤務の職員の出勤状況



ATC・咲洲勤務の職員のTDM取組状況



※ 6/1～30,7/1～18,8/18～29の平日を集計



大阪・関西万博TDMパートナー

5

会期終盤に向けた進め方

■ 会期終盤に向けた進め方

- 万博TDMの取組が開催期間中においても、交通量低減に一定の効果があることを確認。
- 今後、会期終盤にかけて万博来場者数の増加が見込まれる中、特に万博会場周辺やOsaka Metro中央線沿線をはじめとする各企業の皆さまへの働きかけが重要



■ 万博TDMの推進に向けた今後の取組

今後の取組

- ✓ 会期終盤に向けた訴求力の高い広報の実施【資料3】
- ✓ 万博会場周辺やOsaka Metro中央線沿線企業に対する万博TDM協力に関するDM発送
- ✓ 引き続き、中央線沿線主要集客施設や万博会場周辺の規模（事業者数）が大きいTDMパートナー企業への働きかけ

■万博会期中の府市及び博覧会協会のTDM取組方針

TDM取組の基本的な考え方

- 万博交通の集中が予測されるOsaka Metro中央線、御堂筋線における午前中のピーク時間帯（8時台～10時台）の混雑緩和に寄与する取組が必要
- 特に、万博会場へ直接乗り入れる唯一の路線であるOsaka Metro中央線の混雑緩和に寄与する大阪府市（咲洲庁舎・ATC庁舎）、博覧会協会においては重点的な取組が必要
- 一方、上記以外の所属についても、大阪府下全域の交通総量を削減する観点から、TDMの取組を実施

取組目標

対象職員	非常に混雑する期間 (R7.10.1～10.13)	混雑する期間 (R7.6.1～6.30、8.18～9.30)
大阪府市職員		
咲洲庁舎・ATC庁舎	<u>7割</u>	<u>3割～5割</u> ※2
大阪府庁・ 大阪市役所など※1	<u>3割</u>	可能な範囲
大阪府市職員（上記除く）	可能な範囲	可能な範囲
博覧会協会	<u>7割</u>	<u>7割</u>

※1 市役所の所属（副首都推進局、市政改革室、デジタル統括室、総務局、都市交通局、政策企画室、危機管理室、市民局、財政局、計画調整局、福祉局、健康局、こども青少年局、都市整備局、会計室、教育委員会事務局、行政委員会事務局、市会事務局）、契約管財局、環境局（あべのルシアス）、消防局、港区役所

※2 咲洲庁舎・ATC庁舎の職員は、令和7年6月1日～6月15日は3割の通勤削減、令和7年6月16日～7月18日及び8月18日～9月30日は、可能な限り5割の通勤削減を目指す



大阪・関西万博TDMパートナー

6

(参考) TDM関連施策

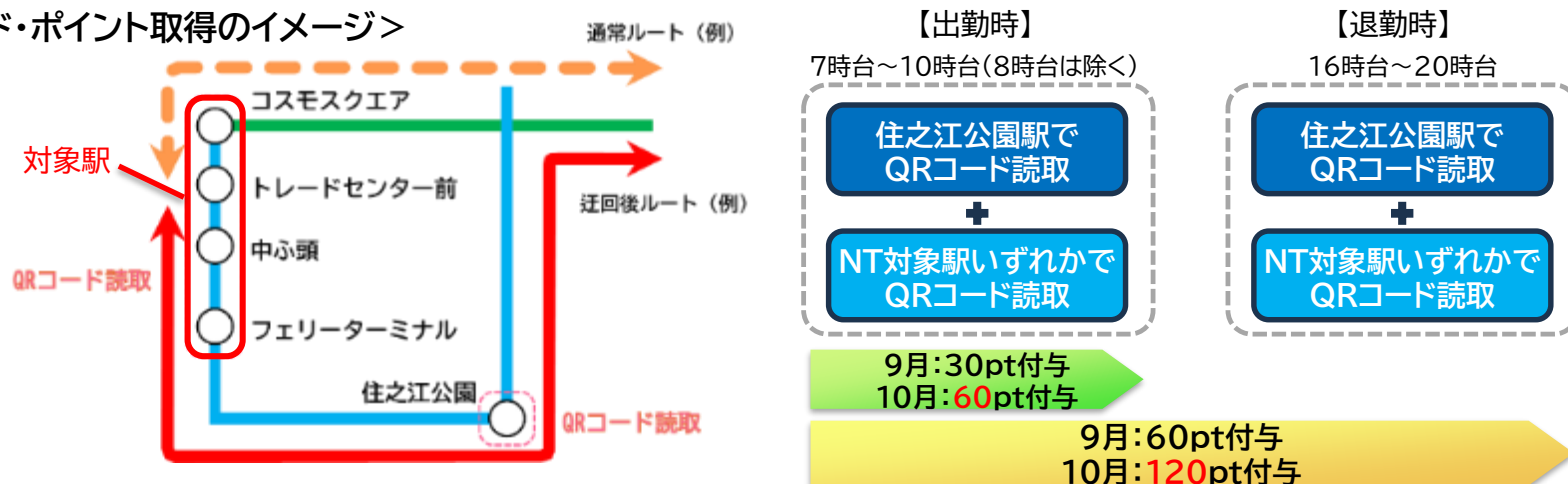
1 概要

中央線のご利用から、比較的混雑が少ないニュートラムへの迂回かつ時差出勤にご協力をいただいたお客さまに対してe METROアプリを活用して、Osaka Point をプレゼントします。

住之江公園駅とコスモスクエア駅、トレードセンター前駅、中心頭駅、フェリーターミナル駅に「QRコード用紙」を設置しておりますので、迂回されるお客さまがe METROアプリで、7時台から10時台(8時台は除く)または16時台から20時台に、「住之江公園駅」と「コスモスクエア駅、トレードセンター前駅、中心頭駅、フェリーターミナル駅のいずれか1駅」の計2箇所でQRコードを読み取っていただくことが条件となります。

さらなる混雑が予想される会期終盤の10月により多くのお客さまにTDMにご協力いただくため、通常時の2倍のポイントをプレゼントします。

<QRコード・ポイント取得のイメージ>



2 実施期間

2025年6月2日(月)から2025年6月30日(月)、2025年8月18日(月)から2025年10月10日(金)の平日

(注)ただし、QRの読み取り有効時間は、7時台から10時台(8時台は除く※)と、16時台から20時台に限ります。

この時間帯以外にQRコードを読み込まれた場合は無効となります。

※8時台は列車の混雑が著しいため、7時台・9時台から10時台に迂回時差出勤をお願いいたします。

3 ポイント詳細

迂回にご協力いただき、7時台から10時台(8時台は除く)または16時台から20時台に、QRコードを2箇所で読み込まれたお客さまにはe METROアプリにてOsaka point を30ポイントプレゼントします。なお、おひとりさま1日あたり60ポイントの付与を上限とします。ポイントは、後日付与いたします。

2025年10月1日(水)から2025年10月10日(金)の平日については、1回あたりの付与ポイントを60ポイントに変更し、おひとりさま1日あたり120ポイントの付与を上限とします。

■万博TDM タッチ決済キャンペーンの実施について

2025年8月18日(月)～10月13日(月)のオフピーク時間帯(11:00～15:59)にOsaka Metro線内にてクレカ等のタッチ決済を利用して乗車または降車いただくと30%を即時キャッシュバックいたします。
※府市が実施する万博TDMの取組に賛同したカード会社等の協力を得て実施するキャンペーンです。

1 キャンペーン期間	2025年8月18日(月)～2025年10月13日(月)まで
2 特典	<u>キャンペーン期間中の11:00～15:59にOsaka Metroの駅で乗車または降車いただくと、30%即時キャッシュバック</u>されます。 ※利用金額請求時には30%の即時キャッシュバック金額を差し引いた金額が表示されます。 ※阪急電鉄、北大阪急行、近畿日本鉄道などのOsaka Metro以外の各社の相互乗り入れ区間はキャンペーン対象外となります。 ※11:00や16:00付近に乗車または降車された場合、接続環境により、タイムラグ等が発生して対象外と判定される場合があります。時間に余裕をもったご利用をおすすめいたします
3 対象の鉄道事業者	Osaka Metro ※Osaka Metroと相互直通運転している北大阪急行、近畿日本鉄道、阪急電鉄などの各社はキャンペーンの対象外です。
4 対象時間帯	11:00～15:59にOsaka Metroの駅で乗車、または降車いただく。
5 対象カード	下記の対象カードの中でタッチ決済マークがあるものがご利用いただけます。 •Visa、Mastercard、JCB、American Express、Diners Club、Discoverカード（クレジット・デビット・プリペイド） •銀聯カード(クレジット)  ※プラスチックカード以外の形状（例：スマートフォン、ウェアラブルデバイス）を通じたカードのご利用も対象